諏訪小だより

令和５年１０月３１日
１１月号
多摩市立諏訪小学校
校長　齋藤　幸之介

１２月の人権週間を前に

過日行いました運動会に際し、直前の学校閉鎖等、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。何とか終了することができましたことに改めて感謝をするとともに、健康の維持・増進にさらに気を配らなければ、と思っているところです。こちらから具体的にお示しをする場合もございますが、今後さらなる御理解と御協力を賜りたく存じます。

さて、少し先のお話になりますが、12 月 4 日から 10 日までは人権週間となっています。1948 年 12 月 10 日の国際連合総会において「世界人権宣言」が採択され、我が国でも翌年から 12 月 10 日を最終日とする人権週間を設定することとなりました。全国的に人権啓発活動を特に強化して行う期間となります。

様々なところで「人権」は叫ばれるようになっています。しかし、例えば紛争が報じられる場合が少なくなく、そこに巻き込まれている人々の生命が脅かされています。人権、つまり人が人として生きていくことができる権利が保障されていない、と気付きます。

これからの行く先が不安にもなります。

医師としてだけでなく

アフガニスタンの復興を目指してお力を尽くされた医師　中村哲さんは、2019 年 12 月 4 日に銃撃にあってお亡くなりになりました。多くの方々の記憶に刻まれていると思います。ある教科書にも中村さんの功績が記されています。

長く紛争の続くこの地域の医療は十分ではなく、中村さんはアフガニスタンの隣国・パキスタンのペシャワールで、ハンセン病の治療に当たりました。

らい菌が体に入ると他の傷等の痛みを感じなくなるなど、状態は悪化するそうです。そのために、履物は一層重要です。そこで、中村さんは、現地人々に適したサンダルを普及させることに力を注ぎました。何足ものサンダルを手に入れてはこれらを解体し、その特徴を明らかにしました。すると、柔らかい皮を選んで釘を使わないその製法は、傷の予防にもなることが明らかになりました。地域の職人に製造を依頼してサンダルは広まっていったそうです。中村さんの根底には「人はやはり人」という考え方がありました。

中村さんは、このように人々を助けるために、医師としての役割に止まらず広くその他の業務にも取り組みます。その一つが用水路建設でした。

現地の人々を育てる－用水路建設を通して

かつて実り多い農業国と言われたアフガニスタンも、歴史的な大干ばつに見舞われ、多くの被害が出ました。栄養失調や不衛生な水野ために幼児や高齢者が多く命を失いました。中村さんは、ここに必要なのは、医療だけでなく、清潔な水や豊富な農業用水、と考えます。そして、中村さんは独学で土木工事を学び、実際に自ら着工しました。

中村さんの医療のみならず農業事業等を支援する「ペシャワール会」という国際団体があります。このスタッフも用水路建設事業に参加しましたが、中村さんは、「用水路は命の基盤。住民が自ら維持管理して長く使えるものが望ましい」と考え、現地の人々の教育もしていきます。「中村さんがいなくても現場は動く」、そう語る人もいました。

今年度の人権週間に際して

第二次世界大戦後、日本の教育は大きく変わりました。今では当たり前に使われている「民主主義」も、それこそ一から教えられていました。当時の教科書に民主主義の根本精神が語られています。それは「人間の尊重ということにほかならない」。学校で人権を学ばせる際、私共はこの原点とも言えることを確認し、そして改めて人権教育の充実を目指さなければ、と思っています。

私は、今年度の人権週間に際し、以上の中村哲さんの考え方や功績を紹介しながら、一人一人に問いたいと思います。

（参考）
「中村哲　という生き方（中原興平　2014 年、西日本新聞）」
「アフガニスタンの診療所から（中村哲　2005 年、ちくま文庫）」
「民主主義（1948－53）－中学・高校社会科教科書エッセンス復刻版（文部省著　西田亮介編 2016 年　幻冬舎新書）」